

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471900785
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会
事業所名	社会福祉法人 湘南福祉協会 グループホーム なごみ
訪問調査日	平成 20 年 10 月 8 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 21 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1471900785
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会
事業所名	社会福祉法人 湘南福祉協会 グループホーム なごみ
所在地	神奈川県横須賀市久里浜2-27-17 (電話) 046-837-3502

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年10月8日	評価確定日	平成20年11月21日

【情報提供票より】(平成20年9月7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 10 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	12 人	常勤	2 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 6.3 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	61,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	903	円	

(4)利用者の概要(平成20年9月7日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	78 歳	最高	88 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	総合病院 湘南病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◆「地域の中で、一人ひとりの意思を尊重し安らぎと喜びが実感できる生活を送れるように支援する」を理念として謳い、職員は笑顔を絶やさず利用者とともに楽しむことを心がけ、目配り、気配り、声かけで見守り、安心・安全に努めている。
◆天気の良い日は散歩や外出をして、地域との交流を積極的に行い関係作りを深めると同時に、利用者の心身のリフレッシュをはかっている。
◆協力医療機関である同一法人の医療機関から、月一回の訪問診療と週一回の歯科検診・治療を受け、利用者の健康維持に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	日常のサービスの改善として、玄関の網戸の取り付けや2階にエアコンを設置するなどの設備の改善を行った。通院時に医師との意思疎通を深めるため、利用者のバイタル記録を表にしてすぐに状態がわかるようにした。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の受審は5回目、施設長(管理者)と職員はともに評価の意義を理解しており、全職員がそれぞれ自己評価票を作成して、施設長がまとめた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所単独の運営推進会議では、ボランティアの協力依頼や災害時の連携などについて話し合っている。地区の4事業所合同で開催するブロック会議では、他の事業所と運営やサービス提供について情報交換をしたり市の担当者から指導を受け、次のブロック会議では、事業所が地域で貢献できることについて議題に挙げる予定である。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居時に、利用者、家族に意見、苦情、不安等を表明できることを説明し、家族の来訪時には、話しやすい雰囲気心がけている。玄関に「意見箱」を置いて、誰でも意見等を出せるようにしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の人と顔馴染みとなるよう、散歩や外出時には積極的に挨拶や声かけを行い、近隣の人たちからも声をかけてもらっている。今年は町内会の組長を引き受け、町内行事に参加したり、集金などで各家庭を訪問して、組長の役割を通して、事業所を理解してもらおうように努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で、一人ひとりの意思を尊重し安らぎと喜びが実感できる生活が送れるように支援する」を理念として謳い、職員は笑顔を決やさず利用者とともに楽しむことを心がけ、地域の人たちとの交流を積極的に取り組んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務室に掲示するとともに、理念に基づき、利用者が安らぎと喜びが実感できる生活を送ることができるように、毎日のミーティングや職員会議で職員間で話し合い、実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人と顔馴染みとなるよう、散歩や外出時には積極的に挨拶や声かけを行っている。今年は町内会の組長を引き受け、町内行事への参加したり、集金など組長の役割を通して、事業所を理解してもらうように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長・職員ともに評価の意義を理解し、自己評価には全職員で取り組んだ。前回の評価をもとに日常のサービスの改善として、玄関の網戸の取り付けや2階にエアコンを設置するなどの設備の改善を行うとともに、通院時に医師との疎通を深めるため利用者のバイタル記録を表にしてすぐに状態がわかるようにした。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、本事業所単独で開催する運営推進会議を年4回、地区の4事業所合同で開催するブロック会議を年2回開催している。事業所単独の運営推進会議では状況報告やボランティアの協力依頼、災害時の地域との連携等について話し合い、ブロック会議では市の担当者から情報を受けたり、事業所間で運営やサービス提供等について意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所から市の担当窓口に出向き、利用者の状況や事業所の運営等について相談にのってもらっているほか、市主催または市担当者も参加する市グループホーム協議会の研修会・会議等に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の日々の暮らしぶりを写真を添えて報告したり、金銭出納帳を確認してもらっている。年4回「なごみ通信」を発行している。来訪が困難な家族には、手紙や電話で利用者の様子等を知らせている。また、緊急時は電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に契約書に基づき、意見・苦情・不満が表明できることを説明している。玄関に「意見箱」を置き、家族の来訪時には相談しやすい雰囲気心がけている。家族も参加する年2回のレクリエーション外出時にも、家族との交流に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は職員の話をよく聞き、楽しく暖かい職場環境づくりを心がけている。職員の半数近くは5年以上在籍しており、利用者とも馴染みの関係となっている。職員が交代する時は引継ぎを十分に行い、他の職員もフォローして利用者への影響を少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を事務室に貼り出し、全職員が交代で、参加しやすいように勤務調整を行っている。研修終了後は報告書を作成し、職員会議で報告して職員間での共有をはかっている。今年度は認知症基本講座に4名、スキルアップ研修に7名が参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症高齢者グループホーム協議会、市グループホーム協議会に参加し、地域の事業者と運営やサービス提供について意見交換を行っている。今後は相互訪問活動の取り組みを予定しており、日程を調整している段階である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学時に、家族と一緒に事業所のレクリエーションやお茶に参加してもらい、お互いに自己紹介をして、入居日が初対面とならないように配慮している。入居当初は見守りを多くし、気軽に話せる雰囲気や本人の話をじっくりと聴く機会をつくっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、知恵や知識を伝授してもらったり、人との接し方を教わったりと、利用者一人ひとりから様々なことを教えてもらっている。また、利用者から職員の体調を気遣う言葉かけをもらうこともある。訪問調査の昼食時、利用者同士で助け合ったり、教えあったりしている場面を見受けた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談で、利用者と家族から思いや暮らし方の希望を聞き、全職員が参加するケースカンファレンスで共有している。入居後は利用者本人から直接思いを聞いたり、日々の会話、顔色や様子から把握することに努め、サービス内容に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に利用者と家族からアセスメントを行い、全職員が参加するケースカンファレンスで意見交換をし、利用者の意向と状況に即した短期、長期目標を立て介護計画を作成している。介護計画の作成にあたっては、家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居後は、担当の職員が中心になり、介護認定の見直し時に家族と相談したり、個人記録や連絡帳を参考に、全職員が参加するケースカンファレンスで検討して、短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。状況の変化がある場合には、家族や関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人のデイサービスに週一回通い、多くの人と接する中で心身のリフレッシュをはかったり、協力医療機関である同一法人の医療機関から定期的に訪問診療を受けている。また、重度化した場合には同一法人の施設を紹介するなど、法人内の事業所と連携を取りながら支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診希望の利用者は継続して受診している。入居前からのかかりつけ医、事業所の協力医療機関、いずれの受診時においても、事業所での日々のバイタル表や様子をまとめた記録を持参して、医師との連携をはかっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者や家族に、施設設備の関係で重度化した場合や看取りは対応できないことを説明して、同意を得ている。今後の対応に向けて法人全体で検討を始めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけやトイレ誘導など、尊厳やプライバシーに配慮するよう職員に徹底している。利用者の尊厳やプライバシーを損ねるような言動が職員に見られた時は、施設長がその都度注意指導を行っている。また、個人情報保護についてもミーティングや職員会議で取り上げて徹底をはかり、書類は事務室内の目立たない書庫に収めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者とその日の希望を聞いたり、意向の表明ができない人には職員が「～しましょうか」と話しかけて対応している。利用者一人ひとりが自由に趣味に取り組んだり、買い物に出かけたりするなど、それぞれに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人内の管理栄養士から提供を受けた献立表を参考に、利用者の体調やその日の天候をみながら決め、時には利用者のリクエストも取り入れている。食事の準備を利用者と職員が一緒に行い、食後は一人ひとりが下膳し、当番の利用者が職員と一緒に食器洗いを行うなど、食事は利用者と職員が和やかに一緒に摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回と曜日を決めているが、夏季や散歩から帰った時などにはシャワー浴をしたり、体調によっては足浴で対応することもある。担当の職員が介助や見守りをし、背中や髪を洗うのを手伝うこともある。入浴を好まない人には誘導の声かけを工夫したりするが、無理強いはいないようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域のボランティアの協力を得て押し花や書道を習ったり、利用者の得意なことで調理に携わったり、花の水遣りをしたりと趣味や家事に関わりながら日々を楽しんでいる。通院時に、喫茶店でお茶を飲んだり、デパート等に寄って買い物をするなど、気晴らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は、利用者一人ひとりの体調や気分を考慮した上でコースや距離を決めて、散歩に出かけ心身のリフレッシュをはかっている。利用者の希望によって金融機関や喫茶店、デパート等に行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、職員の見守りや声かけで対応している。居室は内側からかけられるが、かける人はいない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回町内の防災訓練に参加し、事業所独自の訓練も行い、消防署に実施報告書を提出している。平成21年3月に夜間訓練を実施するため、現在夜勤者全員の日程調整を行っている。非常食・水、消火器を備えている。運営推進会議で、地域への災害時の協力要請をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士から提供を受けた献立表を基にして、利用者の体調等を考慮して献立を決めている。一日の食事と水分の摂取量は都度記録をし、訪問診療時に医師からアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等の共用空間は清潔を保持しており、不快な音や臭いは感じられない。特にトイレは汚れた後すぐに拭くことを徹底し、臭気にも気をつけている。居間の壁には利用者が共同で作った作品や写真を飾り、折にふれ話題にして楽しんでいる。利用者が活けた季節の花がテーブルに飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具等の持ち込みをすすめており、居室には整理ダンスや仏壇など利用者本人の馴染みの家具が持ち込まれている。ダンスの上に写真やぬいぐるみを飾ったり、壁に手作りのカレンダーや押し花を額に入れて飾っている人もいて、それぞれ好みの設えになっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉協会 湘南福祉協会 グループホームなごみ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市久里浜2-27-17
記入者名 (管理者)	管理者 木村 和子
記入日	平成 20年 9月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	町内会に加入し、ごく普通の暮らしが出来るよう独自の理念を作りあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いかに穏やかに笑顔のある生活が提供出来るか、朝夕のミーティングや毎月の職員会議で日々その都度話し合っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	今年は町内会の組長を引き受け、【なごみ】を知って頂くように努め、又毎日の散歩にこちらから挨拶を心がけている。ご家族も散歩に参加されている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の途中ご近所から「皆さんが花を良く見てくださるので新しい花植えておきましたよ」とか「庭の中にいつでも入って見て下さい」と嬉しい声をかけて頂けるようになりました。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の防災訓練やお祭りなど行事に参加、手伝いをなどで交流に努め、民生委員、ボランティアさんにもご協力頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	10月の運営推進会議で当施設が地域に貢献できることは何かを議題の一つにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果を掲示し、職員誰もが認識するように自己評価は全員記入。改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区のブロック会議では他事業所との情報交換や市の指導、事業所会議では家族や地域の方のご意見など伺い、事業所からは協力をお願いしたり、環境改善に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	散歩道の境界杭の出っ張りやカーブミラーの被さった木の枝など市と連絡を取り、地域の方が安全であるように、又個々の相談など長寿社会課と連絡を取りサービス向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	必要に応じて対応しているが、一人でも多く講習会に参加し、支援できるよう学んで行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目に見える虐待だけでなく言葉の虐待もあること、常に確認し、資料など壁に張り出し提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別対応している時にその時の雰囲気に合わせて話方で伺い、話せない方には、ご意見箱の利用も行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族対応の受診時、日々の生活が分かるように資料を提供その時に小遣い帳の確認、年4回の《なごみ通信》で現況報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受け入れ窓口や職員を明確にしており、入居者、家族に利用の仕方を文書と口頭でお伝えしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日朝夕のミーティング、月1回の職員会議で意見、提案など出し合い反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	余裕のある勤務体制で、利用者の健康状態、行事、レクリエーションに合わせて柔軟なシフトを組んでいる。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	5年以上勤務の職員が半数近く在籍していて馴染み深く、新しい入職者も《なごみ》の雰囲気に直ぐ馴染み利用者も新しい風に喜ばれている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には誰でも参加出来るように、会議の時に情報提供や壁に掲示してある。研修内容も掲示したり会議で発表している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市のグループホーム協議会での勉強会や運営推進会議での交流を通じサービス向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	僅かな時間でもお茶を飲みながら雑談をし、話やすい雰囲気を作っている。 職員の歓送迎会などでコミュニケーションを図り取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員夫々が向上のために通う講習や教室の妨げにならないようシフトに配慮している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの生活歴を尊重し、安心、安全に暮らしていける場となるように、気軽に話せる雰囲気、じっくり聴く機会を作り努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が不安に思われること、困っていることを良くお聴きし、いつでも時間を取り受け止めることに努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何を必要とされているかを見極め、よくお聴きして対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学の時ご家族と一緒にお茶やレクリエーションの時間に参加して頂き、入所日が初対面にならないように、安心して馴染めるよう工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	編み物の好きな方が、職員の孫に靴下を編んでくれたり、昔の知恵、知識など教えて頂いたり、年長者として尊敬し、支えあって生活を共に楽しんでいく関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連絡、連携を取り、散歩に参加して頂いたりお茶や昼食を一緒に過ごして頂いて共に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠になっている家族には、電話や手紙で状況を伝えたり、パイプ役となりよい関係が築いていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月23日を「ふみの日」として友人、知人、家族に手紙を書き近況報告をしたりいつでも外出、外泊が可能なお伝えして支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は会議や申し送りで常に状況把握しており、時に応じて席替えをしたり、孤立しないよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要があれば相談を受けて、情報提供やできる限りの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時における面談やその後の生活の中での面談で本人の意向、希望を把握している。ご自分の気持ち、意向を出されない方には、普段の会話の中から把握している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族面談や生活の中で今までの暮らし、環境をお聴きして把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムを知り、会話や行動を通して本人が満足のいく生活を送れているか否か現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の意向、本人の願っていることを達成可能に近づくよう、面会の時や受診時に意見、要望などお聴きし利用者本位の介護計画が出来るよう職員全員参加で計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議と朝夕の申し送りに必要な方のカンファレンスをし、早急に対応必要なことには、家族、関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録を個別に記入し、職員間の連絡ノートの活用やミーティング、職員会議で情報を共有し、実践、見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所には無いが、法人内のディサービスに通いリフレッシュ、大勢の方と接する機会を得るよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方に月一度の散髪と押し花を教えて頂き、こちらからも書道など習いに行くことも支援しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域推進会議やグループホーム協議会において情報交換や話し合いの中で、必要に応じ支援できるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	処遇困難なケースや問題が生じた時には包括支援センターと協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望のかかりつけ医に受診し、月一度の提携病院からの往診で安心を得られるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医と提携病院の精神科の定期診察で密に相談や治療を受けられるよう支援している。歯科医は定期健診と治療に往診。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		○	地域の訪問看護ステーションとの協力関係を築いていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者の情報の交換を密接に行い、適切利用状況を把握し、家族と相談しながら早期に退院できるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	事業所の設備等の問題から現在対応できない事を入所時に利用者、家族に説明了解を得ているが、今後検討し取り組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者、家族には特養などの情報提供や申し込み、資料提供などで支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現状における関係者との連絡を密に取り、移る先の状況把握に努める。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛けを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴に夏は間にシャワー浴、足浴と個人の状況に応じて支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室内、寝具の清潔に配慮し、安眠できるように不安材料が無いか、常に把握して、昼は休憩時間を取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や趣味を把握して、日常に活かしている。編み物をしたり、地域の先生に書道を習いに行ったり、花の水撒きをしたり、思い思いに楽しめるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々近くの商店に行き、好みの服や食べたいおやつ、文房具など自分の財布から支払いするよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、受診、銀行、郵便局など希望に沿った支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に二回遠足を計画実施している。普段はデパートや、通院の帰りに喫茶店に寄ったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月23日を「ふみの日」として友人、知人、家族に手紙を書き近況報告をしたり、自らいつでも電話をかけられるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室でお話したり、他の利用者さんと一緒にお茶や食事をして気軽に訪問していただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の具体的な行為を職員全員に知ってもらう為に会議やミーティング時に話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関とも日中は鍵を掛けていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人の行動を把握し、安全に配慮している。夜勤帯は時間を決め訪室し安全確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	以前使用していた物でも現在の状況から危険となる物なら職員が預かり、必要に応じて一緒に見守りの中で使用する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	目配り、気配り、常に事故のないように見守り、声掛け、確認をし、事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習など受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内の防災非難訓練や事業所での訓練、消火器、非常食、備品の点検もしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族に本人の状態の報告、起こりえるリスクなど説明。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルの異常や顔色、口調、行動に注意し、変化を見逃さないよう徹底している。個人の記録をまとめ医療に結びつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬説明書がいつでも見られる場所にあり、服薬後の状況を医師に報告、副作用の改善につとめている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日のおやつに果物とヨーグルトを取り入れ、野菜たっぷりの食事、散歩と体操を日課として便秘解消につとめている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛け、見守りにより歯磨き、口腔内の清潔を保ち、歯科医による定期健診で支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士より献立表を提供していただき参考にしている。残量や水分摂取量を毎日チェックしてスポーツドリンクなどで対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	掃除、散歩、トイレ食事前など手洗いを徹底している。感染症対策マニュアルを参考に予防に取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買いためは基本的にしない、余分に作らない、冷蔵庫を過信しないを徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ごく普通の家庭のように花を植えたり、野菜をプランタンで作ったり、看板を手作りにして工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、自分たちの手作りの作品を飾るなどでくつろげる雰囲気になっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所は限られているが、その中でも工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具を持ち込みされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	クーラーを増設したり、ドアを替えたりして改善した。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒につながらないよう移動場所の手すりの設置、自室の整理など支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物の整理が出来るようタンスに名前を入れたり、トイレや自室が分かるよう印や名前を付け確認できるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	鉢植えの花に水やり、野菜の収穫を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

介護保険が導入される前に横須賀で一番目に出来たホームで、広さや設備の面など十分ではありませんが、家庭的でご利用者さんが生き生きと笑顔の見られるホームです。